



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
— JSPON —
News Letter Vol.25



がん対策基本法が施行されて10年が経ち、小児がんの療養環境も変化の兆しが見えます。本学会では、新たに始まる第3期がん対策推進基本計画に則り、小児がん看護の向上のため活動していきます。さて、今月のニュースレターは、『CNSの豆知識』にがん看護専門看護師の方から就労に関する記事をいただきました。AYA世代の重要課題ですので、是非お読みください。

第15回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

このたび、第15回日本小児がん看護学会学術集会を、日本小児血液・がん学会、がんの子どもを守る会とともに、愛媛県松山市で開催させていただきます。テーマは、「子どもと家族の歩む道をとともに拓く」です。四国遍路の“同行二人”をイメージし、「小児がんを持つ子どもと家族が、今おかれている苦悩を乗り越え、明日につながる道を切り拓く。そして、未来に向かって進む子どもと家族の姿に寄り添いともに歩む」といった看護者の支援の姿をテーマにしました。

特別講演には、昭和大学病院内「さいかち学級」担任の副島賢和先生に、「病気のこどもになぜ教育が必要なの？～涙も笑いも、力になる～」をテーマにお話ししていただきます。副島先生の活動は、「NHKプロフェッショナル仕事の流儀」でも取り上げられています。また、教育講演は、愛媛県立中央病院小児医療センター長の石田也寸志先生に、「小児がん経験者の長期フォローアップにおいて看護師に期待する役割」についてお話しいただきます。海外招聘講演には、アメリカのBoston Children's Hospital & Dana Faber Cancer Instituteで看護師/血液腫瘍臨床教育者であるColleen Nixon先生に「The Personal & Professional gains of obtaining pediatric hematology/oncology nursing certification」をテーマにご講演いただきます。

シンポジウムでは、「そのケア、どうしてる？困ったときの看護ネットワーク～ケアの些細な疑問を解決し、学び支えあう～」をテーマとして、小児がん拠点病院と連携病院のネットワーク活動の取り組みについて、ご紹介いただきます。また、ミニワークショップでは、骨髄移植を受けた子どもをもつご家族の体験を共有し、家族支援のあり方や看護師の役割についてみなさんと討論したいと思います。合同シンポジウムでは、「笑顔のたねパートⅡ」として、クリニックラウン、子どもホスピス、子どものレスパイトケアなど、子どもと家族が笑顔になれる仲間・時間・空間の提供について、各団体よりご紹介いただきます。

さらに、日本小児がん看護学会の委員会主催のセミナーは、「きょうだい支援について」「みんなでSIOF2018に参加しよう！」「小児看護におけるEnd of Life Care」「小児がん看護の専門教育制度に関する提案」の4つが計画され、実践・教育・研究のレベルアップを図れる企画となっています。また、長期フォローアップ・AYA世代期発症のがん医療環境に関する合同公開シンポジウムも開催されます。

その他、愛媛ならではのイベントとして、しまなみチャリティーマラソン、みきゃん・バリィさん撮影会、絵画展、バイオリンコンサートやアグネス・チャンの公開講演など、多彩なプログラムを企画しております。3日間の学術集会をとおして、日々の実践・教育・研究活動を振り返るとともに、子どもと家族とともに歩み続けられる看護者の役割や支援方法について有意義な議論や意見交換ができればと願っております。多くの看護職の皆様にご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

第15回日本小児がん看護学会学術集会長

薬師神裕子

(愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻)

〔テーマ〕 「子どもと家族の歩む道をとともに拓く」

- 会期：2017年11月9日(木)～11月11日(土) ▪ 会場：ひめぎんホール（愛媛県民文化会館）
- HPアドレス：<http://www.c-linkage.co.jp/jspho-jspon2017/index.html>
- 演題募集期間：2017年5月10日(水)～6月15日(木)
- 参加費：当日受付のみ 看護師 10,000円（3学会共通、すべての会場に参加可能）
- 会員登録：日本小児がん看護学会事務局 <http://jspon.sakura.ne.jp/admission/> 入会申し込み方法

〔プログラム〕

- 特別講演 「病気のこどもになぜ教育が必要なの？～涙も笑いも、力になる～」
- 教育講演 「小児がん経験者の長期フォローアップにおいて看護師に期待する役割」
- 海外招聘講演 「The Personal & Professional gains of obtaining pediatric hematology/oncology nursing certification」
- シンポジウム1 「笑顔のたねパートⅡ」（2学会合同シンポ）
- シンポジウム2 「そのケア、どうしてる？困ったときの看護ネットワーク～ケアの些細な疑問を解決し、学び支えあう～」
- 3団体合同公開シンポジウム 「思春期・若年成人（AYA世代）期発症のがん医療環境を考える」
- ミニワークショップ 「骨髄移植を受けた子どもをもつ家族への支援」
- 公開合同ワークショップ 「小児がんおよびAYAがん患者の長期フォローアップの現状と展望」
- 公開講演 「みんな地球に生きるひと～子どもの未来を考える～」

第14回日本小児がん看護学会学術集会の報告

第14回日本小児がん看護学会学術集会を第58回日本小児血液・がん学会学術集会、第21回がんの子どもを守る会とともに平成28年12月15日～17日の3日間、東京の品川プリンスホテルで開催いたしました。小児がん看護学会のテーマは「小児がんの子どもと家族の力をささえる」としました。小児がんの発病初期における子どもや家族との信頼関係を構築し、過酷な長期にわたる療養生活の質の向上を求めて企画し、学会参加者は医師1,095名、看護師506名、多職種320名、名誉会員15名、医学部・看護学生33名で、全体で1,969名でした。各会場の活発な意見交換と討論で明日からの研究・教育・実践に示唆を得るものとなりましたことを感謝申し上げます。

特別講演には、ノンフィクション作家の柳田邦男先生に絵本を紹介しながら先生の優しい語り口で子どもとの関わりを具体的に示していただきました。

教育講演はイギリスの Faith Gibson 先生(写真⇒)をお招きし、子どもと家族のエンパワメントをどのように引き出すか実践での研究成果を基に講演していただき、今後の小児がん看護の研究・実践に示唆をいただきました。先生の講演内容の日本語版は学会誌に掲載予定ですのでご活用いただければと思います。



藤原千恵子先生には子どもと家族のレジリエンスについて、具体的に分かりやすくお話しいただき、理解を深めることができました。具体的に子どもと家族の強みをどのように引き出し援助につなげるのか実践への示唆をいただきました。

看護シンポジウムでは「診断時から子どもと家族の力をささえる」をテーマに発病初期に多職種等がどのように関わっているのか経験者からの発表を含め、今後の看護実践に役立つものとなりました。そして看護ワークショップでは、「明日から使える看護の技—家族とのかかわり方—」をテーマに参加者参加型として行い、ロールプレーを映像で流すことで参加者同士の意見を聞くことができました。学術交流セミナーでは「看護研究すき？きらい？」、ケア検討委員会では「小児がんの子どもと家族への日頃のケアを見直してみませんか—看護ケアの実状・課題の共有とよりよいケアの実践に向けて—」を開催し、子どもと家族のケアについて参加者と討論できる場となりました。また新しく教育セッションを設け「がん対策基本計画と小児がん看護のこれから」「小児がん診療病院とピアサポートとの協働」をテーマにがん対策基本法等が学べる機会となりました。医師との合同シンポジウムでは「笑顔のたね」をテーマに子どもや家族に笑顔を提供するための、ドックセラピー、病院がプラネタリウム、移動水族館、3団体合同シンポジウムは「わたしのグリーン」をテーマに医師・看護師・き

ょうだい等に発表していただき、参加者は各発表者の悲嘆のプロセスを聴講し共感するとともに考えさせられるシンポジウムとなりました。

一般口演は①親の体験、②プレパレーション、③療養環境、④エンドオブライフケア・グリーフケア⑤思春期の患者への関わり、⑥退院支援、在宅療養、⑦復学支援、⑧経験者への支援、⑨長期フォローアップ、⑩看護師への教育・支援、ポスター発表は①家族への支援、②入院中の看護、③外来・在宅支援、フォローアップで発表演題は計73演題でした。

開催がホテルのため制約もあり、休憩場所の不足や発表会場が細長いため聞きづらい点もありご不便おかけいただきましたが、多くの方のご支援で充実した3日間であったことを心よりお礼申し上げます。

会長 石川福江

(前杏林大学保健学部看護学科看護学専攻小児看護学教授)

SIOP2017のお知らせ

今年のSIOPは、10月12日～15日に、ワシントンDCのWashington Marriott Wardman Park Hotelで開催予定です。12日がeducational day、13日～15日が演題発表です。10日にワシントン小児病院での研修が決定しており、11日にも小児看護関連の施設での研修を検討中です。病院研修には、通訳を同行する予定です。グロリアツーリストに依頼し、①SIOP参加のみ、②病院研修のみ、③病院研修+SIOP参加の3つのコースを企画します。詳細が決まりましたらホームページにてお知らせします。多くの方のご参加をお待ちしています。

連絡先：junogawa@soc.shukutoku.ac.jp

(国際交流委員 小川純子)

【2016年度会計報告】

<収入の部>

項目	決算額(円)	内訳
会員年会費	3,661,000	2016年度以前分:523名 2016年度分:490名
事業収入	391,610	研修会事業収益
雑収入など	47,051	学会誌販売、受取利息など
前期繰越収支差額	10,417,222	
計	14,516,883	

<支出の部>

項目	決算額(円)	内訳
事業費	2,373,503	学術集会、抄録集・学会誌発行、広報活動、教育活動など
管理費	2,169,740	会員管理費、会議費、通信費、人件費など
計	4,543,243	

収入 14,516,883

支出 4,543,243

収支 9,973,640

CNS のまめ知識

～がんサバイバー*の就労について～

1. がんサバイバーの抱える就労における悩み

がんサバイバーにとって、就労は診断期、治療期、寛解期のいずれにおいても、悩ましい問題であることが少なくない。特に診断期や治療期は、体調や通院により今までどおりの職務遂行が難しくなることがあり、健康な時とは異なった働き方の工夫が必要となる場合が多く、職場との関係にも影響を及ぼすことがある。がんという、一般的に「重篤なイメージをもつ疾患」があることを職場に伝えることで不利益を受けるかもしれないという不安から、求職時のみでなく、すでに働いている職場でも公表することをためらったり、公表の仕方について悩むことが多い。また、患者自身も体のつらさや自分の健康や職務遂行能力に不安を抱えていたり、また周りに迷惑をかけることの申し訳なさや周囲に気を使って働くことの負担感もある。寛解期においても、定期通院やいつ再発するかもしれないという不確実な状況への不安から、職場へのかかわりに気を使うこともある。

2. がんサバイバー自身ができること

継続して働くためには、病気は誰でもなる可能性がありお互いさまと思って、同僚への配慮や感謝の気持ちを伝えながら、体調を優先させて、必要な時は周囲に支援を求めていくことが大切である。そして、体調や治療による職場への影響を最小限にするために、自分の病気や副作用について理解し、主治医や看護師と相談しながら自分にあった働き方を考え、できれば職場に治療計画や想定できる状況など具体的に伝え、適切な配慮をえることが望ましい。職場への申告を躊躇する気持ちはあると思うが、職場も起こりうることを想定できれば事前の対策が可能なることもあり、受け入れられやすく、結果的にお互いが働きやすくなる場合も多く、自分の安全も守られる。そうはいつでも告げる事での不利益が心配で難しい場合もあるだろう。その場合、現在生じている実際の症状(痛み、吐き気など)を説明して周囲に相談するとい

う手もある。がんであることが職場に影響しない状態であれば、必ずしも申告する必要はないが、雇用者には労働者の健康と安全に配慮する義務があり、健康状態について聞かれることも多いと思われ、申告するメリットデメリットをよく考える必要がある。

3. 就労を支援する様々なリソース

一般的な職場での相談は、産業医や産業看護師、また就業規則や福利厚生については人事や総務課担当者にできる。また都道府県労働局にも無料の相談窓口がある。大学生であれば、学校の就職支援担当者にも相談できる。若年者の場合は公益財団法人の「がんの子どもを守る会」のソーシャルワーカーも相談にのっている。国策としては、2012年のがん対策推進基本計画でがん患者の就労支援が重点課題としてあげられ、現在ではハローワークの就労支援ナビゲーターががん診療拠点病院などへ出張し、がん患者の就労支援を行う取り組みが全国で始まっており、また、社会労務士による就労相談を行っている施設もある。

自分の病状や職場の事情など様々な状況による就労の難しさは難しさがあるかもしれないが、がんサバイバーの就労を後押しする機運は高まる傾向にあり、こうした支援を受けることで、就労の機会も増えている。CNSとしてもがんサバイバーが働くことに希望がもてる社会の実現に貢献していく役割は大きいと考える。

*がんサバイバー：がんの告知を受けた個人がその生涯を全うするまでを意味する。(NCCS: National Coalition for Cancer Survivorship, 1986)

参考文献：

・がんの仕事のQ&A がんサバイバーの就労体験に学ぶ 第2版、がん情報サービス、2013

・厚労省労働省ホームページ： 2017.5.31 検索)
www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000065173.html
(筑波大学附属病院がん看護専門看護師 風間郁子)

がん対策基本計画が改正されました

2006年にがん対策基本法が制定され、10年経ちました。その間がん医療は高度化し、がんサバイバー、難治性がんや希少がんへの対応というさらなる課題が出てきました。こうしたことから、がん患者が安心して暮らすことのできる社会への環境整備を盛り込んだ「新がん対策基本法」が12月9日に成立しました。さらに「第3期がん対策推進基本計画」案が、ここ半年間の議論の末、概ね了承され夏には閣議決定される予定です。第3期案は、がん予防、がん医療の充実、がんとの共生を3本柱に研究や人材育成などの基盤整備を進める方針が掲げられています。特に小児がんについては、ライフステージに合った対策を強化させるため、長期フォローアップやAYA世代への対応が盛り込まれています。

本学会としてはこの4年間、小児がん看護の充実、質の向上をめざすため「小児がん看護の専門性をもつ

た人材育成」の実現化に向けた活動をしてまいりました。小児血液・がん学会や日本看護協会、患者家族会と連携しながら厚生労働省へ働きかけ、その必要性と責務を長きにわたり伝え続け、結果、小児がん看護の専門性についてある程度の理解を得ることができました。

今後、夏に開催される小児がん拠点病院の要件を議論する「小児がん医療・支援のあり方に関する検討会」では看護の立場から発言していく予定です。

さらに、第3期案に明記された人材育成に貢献するため、本学会としては「**小児がん看護の専門教育制度**」を現在検討しております。学会認定の専門制度を設置することで、より小児看護の質の安定化と均てん化に貢献できると考えます。次回11月の学会では政策委員会セミナーで具体案を提示いたしますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。

(政策委員会 井上玲子)



第14回小児がん看護研修会のご案内

第14回小児がん看護研修会「学童・思春期に死を迎える子どもと家族の看護」を8月26日(土)に、国立成育医療研究センター講堂で開催いたします。申し込み締め切りは8月10日(木)です。内容は、第1部講演「死を迎える子どもの心理～限られた時間とともに歩むために～」 「予後告知に関して～医師の立場から～」、第2部グループワーク「学童・思春期に死を迎える子どもと家族の看護における困難や看護師のできることにについて考えよう」となっています。申し込み方法や、詳しいプログラムはホームページをご覧ください。

問い合わせ：教育委員会 Email: kenshu@ispon.com

平成29年度 日本小児がん看護学会 組織・体制

理事・監事

理事長：上別府圭子

副理事長：塩飽 仁 富岡晶子

理事：石川福江 井上玲子 内田雅代 小川純子
小原美江 上別府圭子 小林京子 込山洋美
佐藤伊織 塩飽 仁 竹之内直子 田村恵美
富岡晶子 平田美佳

監事：野中淳子 森美智子

組織体制

下線：委員長

将来計画委員会：塩飽 仁 井上玲子 内田雅代
上別府圭子 竹之内直子 田村恵美 富岡晶子

教育委員会：竹之内直子 石川福江 荒井由美子
小川純子 込山洋美 柴田映子

編集委員会：小林京子 岩崎美和 佐藤伊織
東樹京子 古谷佳由理 前田留美

国際交流委員会：小川純子 河上智香 平田美佳
山下早苗

ケア検討委員会：小原美江 内田雅代 竹之内直子
平田美佳

学術検討委員会：佐藤伊織 小原美江 上別府圭子
河俣あゆみ 副島堯史

広報委員会：塩飽 仁 入江 亘 井上玲子
田村恵美

研究助成委員会：塩飽 仁 田村恵美

政策委員会：井上玲子 小林京子 前田留美
柴田映子 川勝和子

会計：富岡晶子 石川福江

庶務：佐藤伊織

事務局：副島堯史 佐藤伊織

合同学会プログラム委員：内田雅代 小川純子 小原美江
上別府圭子 富岡晶子

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、1月～12月となっております。平成29年度の振込みがお済みでない方は、お早目をお願いいたします。

[会費振込み先]

郵便振替口座：00590-9-79689

名称：特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会

<学会事務局より>

日本小児がん看護学会事務局は、平成29年1月から下記に移転いたしました。また、会員管理事務局は、平成28年度より下記に移転(外部委託)しております。併せてお知らせいたします。

■学会事務局■

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
家族看護学分野内

FAX: 03-5841-3694 E-mail: office@ispon.com

■会員管理事務局■

〒170-0002

東京都豊島区巣鴨 1-24-1 第2ユニオンビル 4F
(株)ガリレオ

FAX: 03-5981-9852

◆小児がん看護学会誌編集委員会より◆

次号の学会誌「小児がん看護」の発刊は9月です。次次号への投稿は随時受けつけておりますので、奮ってご投稿ください。また、2017年度より、編集委員会では日本小児がん看護学会誌「小児がん看護」への投稿論文作成をコンサルテーション・アシストする「論文投稿コンサルテーション・アシストプログラム」を開始します。プログラムの対象になるのは、日本小児がん看護学会学術集会に一般演題として採択・発表され、プログラムへの応募希望があった演題のうち、最大2演題です。学会発表した演題を投稿したいけれど、論文作成が不安である、相談先が分からないなどの悩みをお持ちの方は、この機会にぜひプログラムにご応募ください。(論文投稿コンサルテーション・アシストプログラムは投稿論文作成へのコンサルテーション・アシストを提供するもので、学会誌での掲載を保証するものではありません。)

日本小児がん看護学会ニュースレター担当

東海大学健康科学部 井上玲子

筑波大学付属病院 田村恵美

[連絡先] 〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143

東海大学健康科学部看護学科内

E-mail: rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp